

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	水と衛生指標の低いルパンデヒ郡の 4 行政村において、就学児童・生徒を取り巻く衛生状況改善を通じ、ネ国政府が進める ODF (Open Defecation Free、野外排泄撲滅) を達成し、地域住民の健康改善を促進する。
(2) 事業内容	本中間報告では、事業を開始した 2014 年 7 月 22 日から 12 月末日の活動内容及び成果について報告を行う。 事業開始当初、郡・行政村レベル事業関係者ならびに対象校関係者との調整会議やオリエンテーションに若干の時間を要したが、各活動は計画通り進んでいる。また、各学校における保健衛生啓発イベントなど、事業後半に予定していた活動の一部を前倒して実施することにより、事業への理解と、受益者である児童を含む関係者の取り込みを図った。 報告期間内に実施した活動の詳細は以下の通り。 <u>活動 0 : プロジェクトマネジメントに係る活動</u> - 2014 年 8 月 23 日、郡レベル事業諮問委員会 (District-level Project Advisory Committee : DPAC) を開催した。ルパンデヒ郡開発局 (District Development Office : DDC)、郡教育局 (District Education Office : DEO)、郡保健局 (District Public Health Office : DPHO) 並びに郡レベル「水と衛生委員会」(District Water and Sanitation Coordination Committee : D-WASH-CC) 等、事業内容に関連する行政機関の他、対象郡で活動する他の NGO が参加し、郡レベルの保健衛生政策と事業活動内容との整合性を確認した他、各関係機関の活動が重複することのないよう調整を行った。本会議に参加した関係機関からは、当団体及びパートナー団体の対象郡におけるこれまでの活動を踏まえ、保健衛生分野のリーディングアクターとして一層活発な活動を期待している、との声が聞かれた。 - 2014 年 9 月 11 日から 18 日にかけて、行政村レベルでのオリエンテーションを実施した。対象各 4 行政村の行政村役場、ヘルスポスト、D-WASH-CC の下部組織である V-WASH-CC、地域教員連合会、ならびに対象校の校長が参加し、本事業の活動内容を説明した。 - 2014 年 9 月 24 日から 11 月 21 日にかけて、対象全 15 校において活動内容の詳細に係るオリエンテーションを実施した。同オリエンテーションには、校長、教員、地元住民代表からなる学校運営委員会 (School Management Committee : SMC) メンバーに加え、子どもクラブ (Child Club : CC) メンバー、教師の他、PTA を含む地域住民代表ら計 558 名が参加し、DEO 職員と本事業スタッフが事業の目的、活動内容、児童・生徒に期待すること、学校や両親の役割等について説明を行った。CC メンバーである児童・生徒からは「学校の代表としてがんばりたい」と前向きな姿勢が伺えた。 - 上記の活動に加えて、DEO、D(V)-WASH-CC との情報共有や協議を随時行った。 <u>活動 1 : 就学児童・生徒の衛生知識向上と行動変容の促進</u> 【子どもクラブの結成と能力強化】 - 対象全 15 校において、上述した各学校でのオリエンテーションと並行し

	て「子どもクラブ(Child Club: CC)」の結成・再結成が行われた。各校の児童・生徒数に応じて、各校10名から32名(計269名)がメンバーとして選出され、また、2名の教員がクラブ活動の担当に任命された。 - CCメンバーに対して、活動促進ツールとして歯ブラシや爪切りなどの個人衛生キットを配布した他、「健康はあなたの手にかかっている!」というスローガンが書かれたタスキをIEC教材のひとつとして作成し、校内での活動の中心的役割を担っていくという意識向上を図った。この他、衛生啓発活動として実施した絵画コンテストの優秀作品を利用したIEC教材(タペストリーや小冊子など)の作成に取り組んでいる。 - 2014年11月24日から2014年12月30日にかけて、CCメンバーや担当教員に対する、環境衛生と個人衛生行動に関する基礎研修(全2日間)を実施した。本研修では、事業スタッフが講師となり、手洗いやトイレ使用の重要性、感染症と衛生の因果関係、学校や家庭において衛生的な生活を送るために必要なことなどのテーマをとりあげ、グループワークやロールプレイの手法を用いてCCメンバーの積極的な活動参加を通じて知識を身につけ、考えることができるよう工夫した。また、実際にトイレ掃除や校庭のゴミ拾いを体験し学校での日常生活に組み込まれるよう促した。 【子どもクラブによる校内衛生啓発活動の推進】 - 基礎研修を受講したCCメンバーが中心となり、各校において他の児童・生徒に対する保健衛生啓発活動が実施された。CCメンバーは、朝礼や課外活動の時間を使って、手洗いや歯みがきの実技指導や、身だしなみチェックを行う等、各校で様々な取り組みが展開されている。 - 2014年11月19日から12月31日にかけて、全15校において環境衛生に関する絵画コンテストが開催された。これは、「世界トイレの日(11月19日)」を祝う行事のひとつとしてCCメンバーや教師が中心となって企画・実施されたものである。同コンテストには、計300名の児童・生徒が参加し、1校あたり4名の優秀作品が選ばれ、その作者に対しては全校生徒の前で表彰し景品の授与を行った。授賞式では、CCメンバーや学校教員が、学校生活における環境衛生の重要性と今後の活動への積極的な参加を呼び掛けた。 <u>活動2：学校内における環境衛生改善支援</u> 【校内清掃活動の推進】 - CCメンバーへの保健衛生基礎研修を終了した13校に対して、教室やトイレで使用する清掃道具(ほうき、ちりとり、ゴミ箱、バケツ、ブラシなど)を供与した。 - 全15校において、CCメンバーが中心となって校庭やトイレ等の校内清掃が始まっている。朝礼の時間を活用し、他児童・生徒と共にゴミ拾いや環境美化の活動が展開されている。現時点では、同活動が不定期であったり清掃が行き届いていなかったりする場合も見受けられたが、今後、CCメンバーや担当教員への意欲向上を促進し、より活発かつ定期的な清掃活動が実施できるよう側面支援を行っていく。 【衛生設備の新設・修繕】 - 2014年8月、各校における衛生設備の状況を再度確認し、SMCの全般的な活動状況や将来において見込まれる維持管理体制等について協議を行い、
--	--

	9校において衛生設備の新設・修繕することに決定した（内訳：トイレ新設3校（計8基）/修繕5校（パーテーション設置等）、水ポンプ新設1校）。 - 2014年9月下旬より11月中旬にかけて、事業で雇用した Construction Supervisor が、各校における衛生設備の修繕箇所、ならびに設置場所を訪問し測量を行い、図面や数量書など一般競争入札の公示に必要な書類を準備した。 - 2014年11月25日付の全国紙にて一般競争入札の公示を行ったが、パートナー団体が規定した基準を満たす応札が得られなかったため、12月17日付の同紙で再公示を行った。2014年12月31日現在、2社からの応札を受け書類の評価を行っており、2015年1月には施工業者が確定する見込みである。 【衛生設備利用状況モニタリング】 - 2014年9月中旬より、事業スタッフが既存の衛生設備利用状況と清掃活動の実施状況のモニタリングを開始した。今後、CCメンバーを巻き込んで継続していく予定としている。 <u>活動3：環境衛生改善活動における学校とコミュニティの連携促進</u> - 2015年1月以降活動を実施する予定のため、特記事項なし
(3) 達成された効果	<u>成果1：就学児童・生徒の知識向上と行動変容が促進される</u> 本成果の達成状況を定量的に測る指標として、「正しい知識を有する児童・生徒の割合（50%→80%）」、「食事前と排泄後に石鹸を使って手洗いする児童・生徒の割合（30%→80%）」、ならびに「常にトイレを使用する児童・生徒の割合（6%→50%）」を設定しているが、CCメンバーへの研修後、他の児童・生徒への啓発活動を始めたばかりである。CCメンバーへの研修終了後、環境・個人衛生の基礎的な知識や正しい手洗いなど実践できるメンバーの数が増加しており、今後の活動を通じてCCメンバー以外の児童・生徒においても知識の向上が期待できる。また、学校内における衛生行動の促進については、CCメンバーが積極的に校内ゴミ拾いや教室の清掃に取り組み、また他の児童・生徒に対して手洗いやトイレ使用の呼びかけを行っている姿勢が見受けられ、改善の兆しが確認できている。 <u>成果2：学校内の環境衛生が改善される</u> 本成果の定量的指標のひとつである、「定期的に清掃活動を行う学校（4校→15校）」については、現在12校で定期清掃が行われていることが確認できている。また、「政府基準の半分以上を満たすトイレ78基全てが常に使用可能な状態」については、現在、68基において清掃や水桶の設置を行い使用可能な状態を維持できている。 上記以外の定性的な変化として、児童・生徒が花や苗木を持ち寄って学校敷地内に植える等、環境美化を意識した自主的な行動が取られている学校も確認されている。 <u>成果3：学校とコミュニティの連携が促進される</u>

	2015 年 1 月以降の取り組みを通じて本成果指標の達成に努める。一方で、本事業の活動に対しては、両親を含む地域住民からも関心が寄せられており、子ども達の取り組みによる波及効果が期待される。 上位目標に対する成果指標である、全対象地域における ODF の達成、ならびに下痢罹患率の減少については、事業終了後数年を目処にその状況を確認する。
(4) 今後の見通し	- CC メンバーや担当教師の能力強化の一環として、基礎研修に続き、応用研修を実施する。応用研修では、特に上級生を対象にピア・エデュケーション手法やコミュニティでのアプローチ等をコンテンツに取り入れることを予定している。 - 2015 年 1 月以降、各校の CC メンバーが中心となって他の児童・生徒に対する学校内での衛生啓発活動や、コミュニティにおける啓発イベントを実施する。 - 学校衛生設備の新設/修繕は 4 月中旬に完成が見込まれるため、各学校におけるその後の使用状況と維持管理体制に係るモニタリング期間が当初予定より 1 カ月程度短くなる。事業終了後の持続的な使用と適切な維持管理体制を担保するため、既存の衛生設備については工事が終了する前から積極的な活用を促すと同時に、SMC を中心とした維持管理体制の強化に取り組む。 - 成果 2 について、現在、定期清掃が実施できていない残り 3 校と、常に使用できる状況にないトイレ 10 基について、当該校を重点的に側面支援していく。